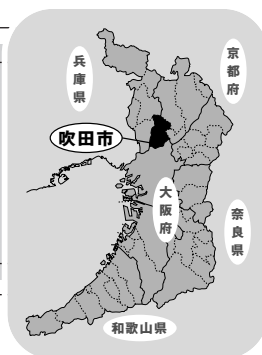


# わたしのまちのPR

ピーアール



## 吹田市編

吹田市は、大阪府の北部に位置し、北部は北摂山系を背景として標高20mから117mのなだらかな千里丘陵、南部は安威川、神崎川や淀川をつくる標高10mほどの低地から形成されています。

昭和15年に府内6番目の市として市制施行し、平成13年には特例市に移行しました。

京都と大阪の間に位置して、独自の文化を育んできた歴史の上に、高度経済成長期の千里ニュータウンの建設、昭和45年の日本万国博覧会の開催などを経て、豊かな明日への歩みを進めています。

この吹田市の特徴や強みについて、吹田市理事のにえかわ牲川さんにお話をお聞きしてきました。



本日はどうぞよろしく申し上げます。

早速ですが、吹田市は、京都や大阪に近く、交通の要所として古くから栄え、人・物・文化・情報が交差するまちとして発展してきたということですが、吹田市の歴史・文化における見どころといった点について、教えていただけますか。

よろしく申し上げます。

吹田市の歴史・文化で特に紹介したいところは、まず、吹田歴史文化まちづくりセンター「浜屋敷」です。

吹田歴史文化まちづくりセンター「浜屋敷」は、平成12年、市に対し、江戸時代の吹田村の旧庄屋屋敷の寄付があり、地域の歴史・文化の保存と、市民文化活動及び市民の歴史・文化のまちづくり活動への利用を進めるために再生され、平成15年6月に吹田歴史文化まちづくりセンターとして生まれ変わりました。

吹田歴史文化まちづくりセンター「浜屋敷」



建物は、土間・台所・座敷からなる主屋、ギャラリー兼音楽室・多目的室として利用する蔵棟、事務室・会議室等のある事務所棟とだんじり展示庫の4棟で構成されています。また、中庭と東庭では屋外のイベント等の利用が可能です。

これらの建物や庭園を使い、歴史と文化のまちづくりにかかる「市民活動の支援並びに市民相互の交流及び連携の促進」・「情報の提供」・「講座、研究会等の開催」・「地域の民俗資料の収集及び活用」を実施しています。

当センターは、江戸時代後期に建築された歴史あ

浜屋敷中庭で開催される「土曜日」



る古民家の特性を活かすことによって、地域に息づく歴史を学び、文化を継承・発展させて、まちに魅力と潤いをもたらし、また、文化活動の振興と交流の場となって地域の発展に資することを目指しています。

市民の方々が郷土の歴史を学び、歴史文化を体験し交流できる拠点として、再生された古民家を有効的に活用されているのですね。

その他に、おすすめの施設はありますか。

その他の施設では、吹田市立千里山・佐井寺図書館を紹介します。この図書館は千里第二小学校の木造校舎を再生利用したもので、平成16年5月、千里山・佐井寺地区にオープンしました。

建物は、西館と東館の2棟から構成されており、西館は木造2階建てで、昭和4年に建てられ、地域で親しまれながらも平成14年に解体された千里第二小学校の校舎をイメージして建てられています。旧校舎で使われていた教壇や階段の手すり、金具など、使用可能なものはそのまま使い、当時の教室も復元しています。

東館は3階建てで、同小学校の旧講堂跡に建っています。土壁風のタイルと白壁で、知識の収蔵庫「知の蔵」を表現しています。

特徴のある建物ですので、平成17年度第25回大阪まちなみ賞（大阪都市景観建築賞）の特別賞を受賞しました。

また、この図書館では、市民の方が知的に「あそ

吹田市立千里山・佐井寺図書館 西館



ぶ、まなぶ、つどう」をコンセプトとしています。

本の貸し出しや調べものの手伝いをするレファレンス、図書館行事などの基本サービスに加え、子ども・障害者・高齢者が利用しやすい施設を心がけています。また、ボランティアの活動、地域のみなさんの交流、文化的行事などの場所も提供していますので、ぜひ皆さんに御利用いただきたいと思います。

復元教室



吹田市では、歴史的な建物を有効活用して、市民に利用してもらっているのですね。

次に、吹田市でのまちづくりについてお聞きしたいと思います。現在取り組んでいる大きなプロジェクトがありましたら、教えてください。

吹田市では、ごみ焼却施設の建替事業と吹田操車場跡地のまちづくりという2大プロジェクトが動き出しています。

ごみ焼却施設の建替事業については、建設後24年を経過し、老朽化した北第2工場（ごみ焼却施設）の建替として北工場敷地内において日量480トンの焼却能力を有する焼却施設の建設事業を進めています。既に廃止している旧焼却施設を解体撤去し、その跡地を利用して建設工事を行うものです。建替事業を進めるにあたっては、環境アセスとしての生活環境影響調査を実施し、平成17年度に調査書としてとりまとめました。また、平成17年度末には建設場所となる旧焼却施設の解体撤去工事を完了しました。新工場の建設工事については、平成17年12月に工事契約を締結し、公害防止対策のより一層の強化や廃熱利用による高効率発電など、環境に配慮した施設の

建設を目指していきます。現在は、基本処理フローや基本配置計画、建物デザインなどの基本設計がまとまったところですが、今後、平成21年度末の完成を目指して進めています。

吹田市ごみ焼却施設 イメージ図

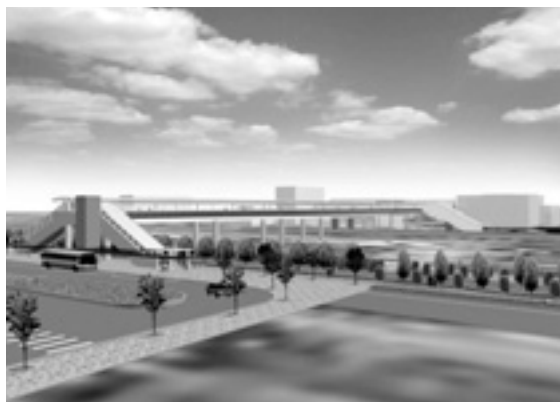


吹田操車場跡地のまちづくりについては、今年2月10日に関係5者間で吹田貨物ターミナル駅（仮称）建設事業の着手合意協定書を締結し、この跡地での夢のあるまちづくりに向け大きな一歩を踏み出しました。

現在の吹田操車場跡地



自由通路（吹田操車場跡地） イメージ図



吹田市では、この跡地を、本市の東の玄関口となる「東部拠点」として位置づけ、「緑と水につつまれた健康・教育創生拠点」づくりを目指して取り組んでいます。今年度においては、本市のみならず北大阪地域全体にも貢献できる「まち」となるよう、事業手法の選択や導入施設の選定等、都市基盤整備のための様々な事業に取り組んでいくとともに、まちづくりの推進を目的とした、有識者を含めた連携組織の設置にも取り組んでいきたいと考えています。

大きなプロジェクトが動き出しているんですね。また、吹田市では、千里ニュータウンの再生に向けて取り組んでいるとお聞きしました。

千里ニュータウンは、日本で初めてのニュータウンとして、昭和30年代から約10年をかけて計画的に開発が行われました。集合住宅と戸建住宅による住宅地、地区センターや近隣センターの商業地をはじめ、公園、道路などが計画的に整備され、大阪都心への交通利便性が高いまちとなっています。

しかし、まちびらきから40年以上が経過した現在では、住民の少子・高齢化、建物の老朽化、近隣センターの衰退など様々な課題を抱えていることから、千里ニュータウンが歩んできた道のりや役割を再認識する中で、市民の方々とともに、21世紀における新たなニュータウンの再生に向けて取り組んでいくことが大切と考えています。

空から見た千里ニュータウン



このような状況の中、吹田市では、市民参加により、まちの再生に向けた今後のあり方について活発

な議論を進めていただき、市民の方々のまちづくりへの思いを十分に反映した「千里ニュータウン再生ビジョン」を平成15年度に策定しました。

また、今後進められる集合住宅等の建替等に対しては、豊かなみどりとゆとりある住環境をいかに継承していくかが求められていることから、平成16年度には集合住宅等の建替計画時に配慮していただく事項として「千里ニュータウンのまちづくり指針」を策定しました。

本指針は、「千里ニュータウン再生ビジョン」を基に、建築物の高さや、敷地の空間のあり方に一定の節度を持たせながら、周辺環境との調和を図っていただくことを目標に、技術的なことがらを中心にまとめたものです。

なお、全国のリーディングタウンとして、各方面から熱い視線を浴び続けてきた千里ニュータウンが、引き続き、輝くことができる再生モデルとなり得るか、改めて注目されていることから、吹田市では今年度当初から、総合的な取組を図る中で千里ニュータウンの再生を推進すべく「千里再生室」を設置しました。

現在、千里再生室では、阪急南千里駅前の千里南地区センター再整備事業における公共施設や都市基盤施設などのあり方について、まちづくり懇談会で市民の方々から意見を伺いながら検討するとともに、今後、本格化する公的賃貸住宅の建替により生み出される再生地の活用のあり方など、ニュータウンの目指すべき将来像の実現に向け取り組んでいます。

世界に誇れる千里文化を「千里ブランド」として継承発展させていく上で、「保全するもの、改善するもの、創造するもの」を都市デザインの観点から見直し、全国のニュータウン再生のモデルとなるよう、取り組んでいます。

さて、最後になりますが、今後の吹田市の方向性についてお聞かせください。

今年度から「吹田市第3次総合計画」がスタートしました。

今回策定した第3次総合計画は、今後のまちづくりの指針となるものであり、先人から引き継いだ素晴らしい財産を、今を生きる私たちが更に磨きをかけ伸ばしながら、安心して暮らし、働き、学び続けることができるまちとして、次世代に引き継いでいくための計画です。

この総合計画では、平成18年度から平成32年度までの15年間で展望し、吹田市の新たな将来像を「人が輝き、感動あふれる美しい都市（まち）すいた」と定めています。

また、この総合計画では、初めて地域別計画を策定しました。市域を6つのブロックに分けて、地域ごとの特徴や課題を踏まえながら、きめ細やかなまちづくりを進めていきます。

既存のまちを活かしながら、新たな魅力あるまちづくりが進められることを期待しています。

本日は、お忙しい中、ありがとうございました。

活発な意見が交わされるまちづくり懇談会

